mediford webinar

mediford

ワクチン開発を加速する最新技術
～経口ワクチンの開発～

2026年12月15日(火)

15:00～ オンライン開催

講演1

日下部 宜宏 先生 ｜九州大学 主幹教授

カイコバイオリソースを使った組換えタンパク質ワクチン抗原の生産



ご略歴

1988年　九州大学農学部卒業
1990年　九州大学大学院農学研究科修了、明治乳業株式会社入社
1993年　佐賀医科大学医学部助手
1995年　ハーバード大学医学部研究員
1997年　九州大学農学部助手
現在（2011年以降）
- 九州大学大学院農学研究院 教授
- 九州大学大学院農学研究院附属昆虫科学・新産業創成研究センター長
- 九州大学大学院農学研究院長・生物資源科学府長・学部長
- 九州大学感染症創薬研究センター長
- 九州大学 副学長、九州大学 主幹教授

地球の環境変動や物流のグローバル化が進み、新興・再興感染症を含む多様な感染症パンデミックの危険性が増大し続けています。安全な国産ワクチンを迅速に供給できる技術基盤の確立は重要ですが、感染症ワクチンは企業にとって魅力的な研究開発対象ではありませんでした。現在、多様な形態のワクチンが開発されていますが、迅速性、生産コスト、副作用に由来する忌避行動、経皮、粘膜ワクチンへの応用などの理由から国産の組換えタンパク質ワクチンに対する期待も非常に大きなものがあります。一方で、人類が大量生産できる組換えタンパク質ワクチン抗原の種類は非常に少なく、さらなる基盤技術の開発が必要です。我々が利用しているカイコ-バキュロウイルス発現系は、複雑な機能ユニットの融合で構成される抗原を大量生産するシステムとして優れており、天然には存在しないタンパク質を自由自在に設計することも可能です。

九州大学では長期に渡り、450以上の近交系カイコ系統を維持管理してきました。その中から、難生産性タンパク質高生産性系統を同定し、独自のウイルスベクターの開発や、多数のタンパク質設計・発現に関するデータの蓄積と組み合わせて、難生産性タンパク質大量生産技術を確立しました。本発表では、九州大学のカイコバイオリソースとカイコ系統を用いた人用、動物用の感染症向け組換えワクチンの開発などについて紹介したい。

講演2

後藤 聖樹 ｜メディフォード株式会社 創薬イノベーションセンター

メディフォード株式会社：ワクチン開発支援・感染症関連サービスのご紹介

メディフォード株式会社では、30年以上にわたり、抗菌薬、抗ウイルス薬、ワクチンなどの感染症関連の測定（in vitro）試験や非臨床（in vivo）試験、治験に必要な資材作製やPBMC分離などを含むCLS試験などの創薬支援業務を提供してきました。本ウェビナーでは、豊富な実績や各種評価系を中心に、当社のワクチン開発支援を含む感染症関連のサービスをご紹介します。

mediford
A Member of PHC Group

お問い合わせ｜ウェビナー事務局
メディフォード株式会社
medf-dds-ddsso@gg.mediford.com
本社｜〒174-0053 東京都板橋区清水町 36 番 1 号

お申し込みはこちら